イリノイ大学シカゴ校における「Introductory Fieldwork」の特質

── 信州大学教育学部における「学校教育臨床基礎」との比較を通して ──

谷塚光典　附属教育実践総合センター，イリノイ大学シカゴ校客員研究員

1　はじめに

教員養成プログラムにおける「教育実習」の位置づけや内容は，ここ数年で大きく変容してきていると言われている。以前は，教育学部における学修の「総まとめ」としての位置づけられてきた「教育実習」であったが，「フレンドシップ事業」をはじめとした多くの体験的活動が教員養成プログラムに導入されてその意義と効果が認められてくるにつれて，教職を目指す学生がそれまでの学修の成果を振り返り自己の課題を見いだすための「教育実習」として捉えられるようになってきている。

筆者は，平成15年度文部科学省在外研究員として，イリノイ大学シカゴ校（University of Illinois at Chicago；以下，UIC）に滞在しており，教育実習や臨床経験[1)]に関連する授業に出席しながら，教員養成におけるティーチング・ポートフォリオの活用に関して研究を進めている。UICの教育学部（College of Education）に所属する学生は，臨床経験科目の履修を通して，自己の過去の経験と現在の臨床経験とを結びつけながら，臨床経験における課題の明確化とさらなる実践をくり返している。

日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクトにおいて2003年9月にまとめられた「教員養成の『モデル・コア・カリキュラム』の検討－『教員養成コア科目群』を基軸にしたカリキュラムづくりの提案－」〔中間答申〕では，教員養成の改善の方向として，「体験と研究の統合」を論じている。すなわち，教育実習やフレンドシップ事業のような体験・参加を，ただそれだけにとどまらせずに，大学における研究の蓄積と照らし合わせて検討・考察される中で，新たな「知」を形成し獲得するという領域にまで高められることの必要性が提案されている。

UICにおける教職科目群のうち，３年生が履修する「ED305: Introductory Fieldwork in the Elementary Education」（以下，ED305「Introductory Fieldwork」）では，公立学校における週１回の臨床経験と並行して，教科書を用いたディスカッションやさまざまな課題を通して，自己の臨床経験を省察する機会を設定し，体験と経験とを統合しながら臨床経験を進めている。

本稿では，信州大学教育学部における「学校教育臨床基礎」（以下，臨床基礎）との比較をまじえながらED305「Introductory Fieldwork」の特質を明らかにすることを通して，日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクトにおいて提案されているような「体験と研究の往還運動」を保証する教員養成プログラムのあり方を検討する。

2　UICにおける教職科目群と臨床経験科目

UICの教育学部では，初等教育に関する教員養成プログラムである「Elementary Education Teacher Preparation Program」を提供している。K－9レベルのElementary Certificate（イリノイ州のtype 03）の取得を目指す学生は，教育学部に所属し，３年次及び４年次に表１のような教職科目群を履修する。これらの科目の履修により，K－9レベルの教員免許を取得できることと合わせて，教育学部の卒業生は「B.A. in Elementary Education」を取得する。初等学校用教員免許をいわゆる「主免」とする一方，表１の科目群の履修と並行して，Middle Schoolレベルの科目やBilingual, ESL関連の科目を履修することによって，それらを「副免」として取得することも可能である。

これらの科目群のうち，臨床経験科目として，次の３科目を挙げることができる。

○ED305	Introductory Fieldwork in the Elementary Education
○ED315	Fieldwork in the Elementary Education II
○ED325	Student Teaching in the Elementary Grades

表１に示しているように，ED305 は３年次の秋学期に，ED315 は４年次の秋学期に，ED325 は４年次の春学期に履修する。いずれの授業も，講義（セミナー）と実習（臨床経験）の組み合わせとなっており，週１回のセミナー（１回あたり，ED305 は 110 分，ED315 と ED325 は 170 分）がシカゴ公立学校（Chicago Public Schools）における臨床経験や教育実習（ED305 は週１日，ED315 は週３日，ED325 は週４日）と並行して進められる。

すなわち，学生は，シカゴ公立学校で行われる週１～４日の臨床経験や教育実習に通いながらも，週１回は約２～３時間の大学のセミナーにも出席している。ED305・ED315・ED325 を担当する大学教員は Field Instructor と呼ばれているが，これらの教員は，学生が臨床経験や教育実習期間中であっても，週１回のセミナーやインフォーマルなコミュニケーション（電話や電子メール）を通して教育実習生との連絡を密にとりながら，臨床経験のリフレクションを促している。

３　UIC における ED305「Introductory Fieldwork」の概要

ED305「Introductory Fieldwork」の履修にあたって，2003 年秋学期の３年次生は，事前に４つにクラス分けされており（cohort），１クラスあたり 25～30 人ずつ所属している。筆者は，このうち Daniel Miltner 氏が担当する月曜午後 3:00～4:50 の授業に出席した。

授業初回に配布された資料[2)]には，担当教員の連絡先（電話番号・電子メールアドレス）やオフィスアワー，授業の概要，授業の目的，成績の基準，出席の原則と欠席時の対応，そして授業計画が記載されている。

表１　UIC における教職科目群

学年・学期	科目コード	科　目　名
セメスター１ ３年次秋学期	ED200	Policy Foundations
	ED210	The Educative Process
	ED305	Introductory Fieldwork in the Elementary Education
セメスター２ ３年次・春学期	ED301	Literacy and Elementary Education
	ED312	Teaching Elementary School Mathematics and Science
	SPED410	Survey of Characteristics of Exceptional Children
セメスター３ ４年次・秋学期	ED311	Reading and Writing Through the Elementary Grades
	ED315	Fieldwork in the Elementary Education II
	ED321	Teaching and Learning for Children of Various Abilities and Cultures
	ED322	Social Studies and Literature in the Elementary Grades
セメスター４ ４年次・春学期	ED325	Student Teaching in the Elementary Grades

（1）ED305「Introductory Fieldwork」の目的

教育学部に所属して教師（特に初等学校の教師）を目指すことを選択した学生が，初めて履修する臨床経験科目がこの ED305 である。ED305 では，まる８日間，すなわち，週１回ずつ８週間に渡ってシカゴ公立学校での臨床経験に臨むことになる。

この授業の目的として，次の５点が挙げられている。

１．教師としての役割を定義づけて理解すること
２．文化的要素・言語的要素・社会的要素が，学校と児童[3]の学習にどのような影響を及ぼしているのかを理解すること
３．反省的実践家としての自覚を持つようになること
４．教室での探究に取り組むこと
５．学校に慣れ親しむようになること

このように，ESL や貧困など，米国の大都市特有の問題を多く抱えているシカゴ公立学校における教員養成初期段階の臨床経験を提供する ED305 では，教師としての意識の芽生えとその育成を目指すことはもちろん，困難な環境下での教育について理解した上で，自らの教育実践を反省的に振り返りながら自己の専門性を高めることができる教師を育成することを目的としている。

（2）ED305「Introductory Fieldwork」の成績評価

この授業では，成績評価の基準を次のように設定している。

１．出席と参加　２０％
２．Paley の本とジャーナル　３０％
３．探究プロジェクト　５０％
主要な課題：児童研究，教室マップ，教師インタビュー，児童インタビュー，
信念表明，指導案，インターネット・プロジェクト
※セメスターを通して利用できるように，ジャーナル用ノートを別に用意すること

（3）ED305「Introductory Fieldwork」の授業計画

ED305「Introductory Fieldwork」の授業計画は，**表２**に示すとおりである。この表には，毎週月曜日のセミナーで取り上げるトピックス，そのトピックスに関連した教科書の章番号や事例番号（次回のセミナーまでに読んでくる課題），そして，「児童研究」や「インターネット・プロジェクト」等の課題の提出期限が明示されている。

毎週のセミナーの展開は，おおよそ次の通りである。学生は毎回同じテーブルに着席する。

出席確認の後，最近の臨床経験での出来事やそこから学んだことをシェアリングする。続いて，教科書（後述）を用いて，課題として指示していた章や事例について，小グループ（３～４人）にわかれてディスカッションする[4]。ディスカッションした内容は，口頭で発表することが多いが，ＴＰシートに記入して提示しながら発表することもある。学期の後半になると，探究プロジェクト（後述）の中で作成した指導案を，臨床経験の所属学級で実践する前に ED305 のセミナーで発表し，**表３**のようなコメントシートを用いて相互にコメントし合う。そして，授業の最後に，今後の課題に関する資料を配付したり説明したりして，次回までの課題（提出する課題と教科書の読むべき章や事例）を確認し，１回のセミナーを終える。

表２　ED305「Introductory Fieldwork」の授業計画（抜粋）

月　日	内　容	次回までの課題
8／25	個人の臨床経験の共有 ED305 の概要の説明	Cruickshank※1 第１章 事例集※2　１～７ページ
9／1	休講※3	
9／8	私たちの教授に影響を及ぼす要素 JT※4：教室でステレオタイピングが起きたときにどのように対処するか。	Cruickshank 第２～３章 事例集　事例 25，26
9／15	教室における多様性	Cruickshank 第７章 事例集　事例１，２
9／22	学習指導モデル JT：これまでにどのような学習指導モデルを経験してきたか。	Cruickshank 第８章，第５章 事例集　事例４，６
9／29	学習指導モデル 児童理解	Cruickshank 第６章 事例集　事例 15，17
A：10／6※5 B：10／13※6	学習指導計画 JT：臨床経験の最初の１週間で，教室での生活のどのような側面に気づいたか。	Cruickshank 第 12 章 事例集　事例 18，19
A：10／20 B：10／27	効果的な教師 JT：児童はどのようにしてもっともよく学習するのか。あなたの教室からいくつかの事例を挙げなさい。 課題提出：「教室マップ」※7，「児童研究」※8	Cruickshank 第 13 章 事例集　事例３，５
A：11／3 B：11／10	学級経営 JT：これまでのどのような学級経営上の問題を観察したか，そしてそれらの問題はどのようにして解決されたかを述べなさい。 課題提出：Paley の本	Cruickshank 第９章 事例集　事例 37，39
A：11／17 B：11／24	児童の学習の評価 課題提出：「インターネット・プロジェクト」	Cruickshank 第 10 章
12／1	全体授業なし－小グループでのミーティング	Cruickshank 第４章
12／8	最終セッション	

（筆者注）※1　Cruickshank, Jenkins, Metcalf (2003) *The Act of Teaching.* の章番号
※2　Rand and Shelton-Colangelo (2003) *Voices of Student Teachers: Cases from the Field.* の事例番号
※3　9 月第 1 月曜日（今年は 1 日）は祝日（レイバー・デー）のため休講
※4　JT：ジャーナル・トピック
※5　10 月と 11 月は，２グループに分かれ，学生は隔週でセミナーに出席する
※6　10 月第２月曜日（今年は 13 日）はコロンバス・デーであったが，セミナーあり
※7　「教室マップ」の提出期限は，当初の授業計画には指示されていなかった
※8　「児童研究」の提出期限は，11 月 17 日または 24 日に変更された

（4）ED305「Introductory Fieldwork」の教科書

この授業では，次の３冊を教科書として指定し，授業でのディスカッションに用いている。

①Donald R. Cruickshank, Deborah Bainer Jenkins, Kim K. Metcalf (2003) *The Act of Teaching*, Third Edition. The McGraw-Hill Companies.
②Muriel K. Rand, Sharon Shelton-Colangelo (2003) *Voices of Student Teachers: Cases from the Field*, Second Edition. Pearson Education.
③Vivian Gussin Paley (1996) *Kwanzaa and Me*. Harvard University Press.

①は，教育実習生が知っておくべきさまざまな実践的な教授方略や評価法を包括的に取り上げて解説している。その目次は**表４**のとおりである。セミナー時には，ファスト・ライト・シート（Ａ５版）が配布され，そこに「今週の課題を読んで，自己の臨床経験において注意を払わなければならないと気づいたこと」２点とそれらを挙げた理由を記入した上で，小グループでディスカッションする。

②は，教育実習生が直面した 62 のジレンマの事例集である。その目次は**表５**のとおりである。この事例集で取り上げられている問題点は，発達理論，動機付け，評価，インクルージョン，テクノロジー，道徳的ジレンマ，都市部の学校，教育実習のプレッシャー，等である。例えば，事例１「あなたは先生じゃない！」では，次のような教育実習生のジレンマが述べられている。

教育実習生 Rosemary Fontenot は，子どもから自分を「本物の教師」として見てもらえるように取り組んでいる一方で，ある児童との関わり方を見つけるのに苦しんでいる。彼女は，幼稚園で教えるときにどうすれば効果的なのか，次に自分は何をすべきなのか，考えている。

前文に続いて，教育実習生が実際に直面しているジレンマが，実習生の言葉で語られている。そして，各事例の最後に，ディスカッションやブレインストーミングを促すためのいくつかの質問があげられている。事例１については，例えば，次のような質問が提起されている。

質問１．この教育実習生が抱いている問題は，子どもたちがこの教育実習生を本物の教師として見なしていないという事実からどの程度起因していることなのか。この児童の行動の原因となり得る他の原因は何か。

表３　探究プロジェクトのコメントシート

発表者 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

児童について

児童は　ａ．その授業に取り組むか　（　はい　／　いいえ　／　たぶん　）
　　ｂ．その授業に興味を持つか（　はい　／　いいえ　／　たぶん　）
　　ｃ．その授業を理解するか　（　はい　／　いいえ　／　たぶん　）

授業について

児童を動機付ける特徴は何か？

児童は何についての問いを抱くか？

リフレクションに役立つように教師がどのような質問をするとよいか？

他に気がついたことや示唆はあるか？

表４　Cruickshank, Jenkins, Metcalf (2003) *The Act of Teaching.*の目次

まえがき
本書の上手な使い方
第１部　教授の背景
　第１章　教授法に影響を及ぼす要素
　第２章　変化している社会における教授の困難
　第３章　多様な児童・生徒の教授
　第４章　学習と教授に関する３つの学派の考え方
　第５章　あなたの児童・生徒を知ること・学習へ動機付けること
第２部　教授の行為
　第６章　学習指導計画
　第７章　４つの学習指導法：提示，議論，個別学習，個別指導
　第８章　さらに４つの学習指導法：協同学習，発見学習，構成主義，直接指導
　第９章　児童・生徒の学習の評価
　第10章　教授のリフレクション
第３部　効果的な教師
　第11章　効果的な教師：個人の属性と特性
　第12章　効果的な教師：専門的技能と能力
　第13章　効果的な教師の学級経営
　第14章　教室で教師が直面する困難
第４部　教授の実践マニュアル
　単元１　マイクロ・ティーチング
　単元２　リフレクティブ・ティーチング
　単元３　211教室：シミュレーション：教室での問題解決
付録
用語集
挿図の出典
索引

表５　Rand and Shelton-Colangelo (2003) *Voices of Student Teachers: Cases from the Field.*の目次

まえがき
第１部　学生のみなさんへ
第２部　学校現場からの事例
　第１章　学級コミュニティーの形成への取り組み
　第２章　カリキュラムと学習指導への取り組み
　第３章　多様性への取り組み
　第４章　家族との協働への取り組み
　第５章　道徳的ジレンマへの取り組み
　第６章　他の専門職との協働への取り組み
第３部　教授をリフレクションする：自己のケースの執筆

③は，多文化社会における学校や教室での先進的な取り組みを紹介している本である。この本は，セミナー中には取り上げられず，各自で読み，次の指示に従ってレポートを提出するものであった。

> この本から主要な考え方を選び出しなさい。そして，その考え方を，これまでのセミナーでの議論したことや Cruickshank の本から読み取ったことと結びつけなさい。あなたのテーマを裏付けるために，あなた自身の考え方や経験を具体化しなさい。長さは２～３ページ。

評価規準として，1)テーマ，2)Cruickshank との関連づけ，3)個人の事例，4)テーマの統合，5)作文，6)引用の適切な使用，の６点が提示されており，各３点，計 18 点満点で採点される。

これらの教科書３冊は，臨床経験に臨んでいる教育実習生にとって，どれも有益なものである。③は，ヒスパニック系の児童が多く在籍している都市部の学校において，教育実習生が直面している問題を見つめ直す機会を提供している。そして，それまでに用いた教科書や実際の臨床経験との有機的な関連を図っている。また，②の『教育実習生の声：学校現場からの事例集』を用いることによって，教育実習生が遭遇するであろうさまざまなジレンマについて，事例に基づいて検討することができる。②の著者も言及しているように，各事例で提起されている問いには一つの決まった正解があるものではなく，事例の検討とさらなる実践を通して「行為の中の省察（reflection in action）」(Schön, 1983) のプロセスを学ぶことを目指している。

そして，①の『教えるという行為』では，教育実習生が知っておくべきさまざまな実践的な教授方略や評価法を，机上の理論として学ぶのではなく，いま実際に自分が臨床経験で直面している教室ではどのような指導法が有効であるのか，児童を理解するためにはどのような手法を用いればいいのか，自己の経験と常に照らし合わせながら，教科書の内容についてディスカッションが行われている。

（５）教育実習生用ファイル

ED305 を履修する学生には，このセミナーの評価を受けるときや教員免許を申請するときに必要な書類や，UIC における臨床経験科目の概要や学生の留意事項などをまとめた「Teacher Candidate File」が配布される。このファイルに含まれる書類は、つぎのようなものである。

> ○UIC College of Education Mission Statement
> ○Elementary Education B. A. Courses
> ○UIC Mentor Qualities
> ○General Guidelines for UIC Teacher Candidates
> ○Early Fieldwork Teacher Candidate Responsibilities
> ○Assessment
> ・UIC Elementary Education Principles and Illinois Professional Teaching Standards
> ・Teacher Candidate Assessment Form
> ・Teacher Candidate Feedback Form
> ○Personnel List
> ○UIC Council on Teacher Education Field Experience Log
> ○UIC Council on Teacher Education Application for Tuition and Service Fee Waiver

これらの書類の中には，イリノイ州教育委員会が作成している「イリノイ州教職専門性スタンダード」(Illinois Professional Teaching Standards)が含まれている。教員免許を申請する際には，このスタンダードに基づいて作成したティーチング・ポートフォリオを作成・提出することになる。

4 ED305「Introductory Fieldwork」における課題

ED305「Introductory Fieldwork」では，いくつかの課題 ── ジャーナル，教室マップ，児童研究，インターネット・プロジェクト，探究プロジェクト ── の提出を課している。ここでは，これらの課題の内容と意義を検討する。

（1）ジャーナル（Journaling）

表1に示したように，学生は，ほぼ隔週で，指定されたトピックスについて，ジャーナルを提出する。一言で言えば，テーマに基づく「実習日誌」といえよう。

ジャーナルを書くときの注意事項として，「長く書く必要はないが，自己の臨床経験からの証拠(evidence)に裏付けされている具体的なエピソードや思考でなければならない」と指示されており，「何が起こったのかを単に記述するのではなく，臨床経験をリフレクションすること」を求めている。

「臨床経験の記録を反省的ジャーナルにまとめるためのアウトライン」として，Posner (1999) が挙げている項目を**表6**のように例示している。

（2）教室マップ（Classroom Map）

ED305「Introductory Fieldwork」としての最初の臨床経験が終わった後で，自分が所属している学級の教室の配置図を作成した。この「教室マップ」は，児童の座席表（児童個人の机の配置と児童の氏名）だけではなく，学級文庫などの本棚，教材を入れる棚，パソコン，教師用机，掲示物，共通の作業テーブル等，教室を構成する要素をスケッチし，その配置（アレンジ）がどのように機能しているか（または機能していないのはなぜか）について意見やコメントを付す課題である。

「教室マップ」の作成を通して，学生は，自分が所属している児童の氏名を覚えて個々の児童の理解を深めることができる。さらに，教室の環境構成を包括的に捉えることによって，児童の学習を促進するために自分の指導教員（Mentor Teacher）が用いている方略を読み取ることができる。

表6 臨床経験の記録を反省的ジャーナルにまとめるためのアウトライン

A．見出し
日付：
所要時間：
B．出来事の順序
起こったことの簡潔な記述
C．1つあるいは2つの重大なエピソードの詳細
詳細なエピソード
よい記述は教授に共通な4つの特徴－教師・学習者・主題・状況－全てを取り上げるべきである。
D．エピソードの分析
そのエピソードがどのような感情や思考をもたらしたかを解釈しなさい。
そのエピソードはなぜ重大であったのか。
そのエピソードはどのような問いを提起したか。
そのエピソードから何を学んだと考えるか。

（3）児童研究（Child Study）

この課題の目的として，次の4点が挙げられている。

a）児童の考え方を傾聴する方法を学ぶこと
b）児童の考え方を探る方法を学ぶこと
c）児童の世界観を理解する方法を学ぶこと
d）児童についてのデータを分析してレポートすること

自分か所属する学級から1人の児童を選び出し，対象児童の観察，対象児童へのインタビュー，対象児童の担任教員へのインタビューなどを用いて，対象児童に関する情報を収集する。そして，**表7**に示したガイドラインに基づいて，4～5ページ程度の最終レポートにまとめて提出する。

この課題のキーワードとなっているのは「evidence」である。観察やインタビューを通して「evidence」を収集する。そして，教科書『教育実習生の声：学校現場からの事例集』や『教えるという行為』で学んだ理論に照らし合わせながら，収集した「evidence」を検討することによって，児童理解を深めていく。「evidence」の検討を始める際に提起する問いの1つとして，「私は対象児童について何を学んだのか。それを示している証拠は何か。」を挙げているように，対象とした児童について主観や印象から述べるのではなく，あくまでも収集した「evidence」に基づいて解釈を行い，**表7**のガイドラインに従ってレポートにまとめていくことが促されている。提出するレポートには，収集した「evidence」も含めることになっている。

近年、「根拠に基づく医療（Evidence-Based Medicine; EBM）」が注目され，EBM に関する出版物も多い。この手法を援用したのが Evidence-Based Education (EBE)であり，米国教育省の Web ページでも解説されている。このページでは，EBE は「学習指導をどのように行うかについて意思決定する際に，利用可能な最善の実証的根拠を専門家の知恵と統合すること」と定義している。

この ED305「Introductory Fieldwork」における課題「児童研究」では，「evidence」に基づく児童研究を通して，臨床経験を通した「実証的根拠」とセミナーを通して学んだ「専門家の知恵」との統合，すなわち，日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクトで提案されている「体験と研究の統合」を実践している。

表7　児童研究のガイドライン（例）

Ⅰ．対象児童の紹介
Ⅱ．教室や学校での学習環境という状況下での対象児童の記述
Ⅲ．学級経営や学級での規律が対象児童に及ぼす効果
Ⅳ．提示された授業に関する対象児童の理解レベル
Ⅴ．対象児童の学習スタイル／学習方略
Ⅵ．対象児童が注目している学習指導の課題
Ⅶ．対象児童が学習プロセスにどの程度積極的に関わっているか
Ⅷ．対象児童の（学業的・社会的）成功がどのくらい観察されたか
Ⅸ．対象児童が高次思考プロセスを用いている指標の記述や行動の成果の記述（児童の面接，教師の面接、観察ノートなどのデータや実際の事例を用いて立証できること）
Ⅹ．結論

（4）インターネット・プロジェクト（Internet Project）

次のような指示に基づいて，課題「インターネット・プロジェクト」を提出する。

> あなたの臨床経験の学年レベルに適している教育ウェブサイトを５つ調べなさい。
> あなたの教授において有益であるなら，それらのウェブサイトの内容に関して批評しなさい。
> 興味深いと判断したページのプリントアウトを１ページ添付しなさい。

UIC で設定している「UIC Elementary Education Principles」では，「児童の学習」に関する項で「教室においてテクノロジーを適切に利用できること」が含まれている。インターネットやレポート作成等で日常的にコンピュータを利用している学生ではあるが，この課題では，学習指導に役立つウェブサイトにはどのようなものがあるかを検索し，その検討を通して，テクノロジーを導入した授業が行えるようになることを意図している。

（5）探究プロジェクト（Inquiry Project）と指導案（Lesson Plan）

この課題の目的として，次の６点が挙げられている。

> １．教科領域のカリキュラムから興味ある部分を選び，研究して実践すること
> ２．仲間と協力して，児童のための指導案を作成すること
> ３．専門職としての対話を実践すること
> ４．教えているときの変更に注意しながら，仲間に対して，児童に対して教えること
> ５．教えているときに，児童の評価を実践すること
> ６．児童の理解や自己の指導に関する経験をリフレクションすること

ED305 の臨床経験では，１学級には２人ずつ所属している。そのため，この課題は，同じ学級に所属する２人が協力して進めることになる（ただし，リフレクションはそれぞれが行う）。

協力して作成した指導案に基づく授業の流れを，実践する前の週のセミナーで発表し，前出の**表３**のコメントシートを用いて相互にコメントし合い，さらに改善してから，実習校で実践する。そして，授業後は，evidence に基づくリフレクションを行い，**表８**に示す項目を含むようにしながら最終レポートとしてまとめて提出する。

表８　探究プロジェクトをまとめる際のガイドライン

a）２つの指導案－授業前の当初の指導案，改訂後の指導案（修正点を明記する）
b）収集した根拠（evidence）にもとづいて，指導案をどのように改訂したかについてのリフレクション－どのように改訂したか，そしてその改訂を決めた理由
c）指導時の配布物や提出物－（例）児童の作品３点以上とそれぞれへのコメント
d）評価ツールをどのように適用したのか，評価ツールはどのように役立ったか，そして次回はその評価ツールをどのように変更するのかについてのリフレクション
e）この経験全体を通してのリフレクション －根拠（evidence）にもとづいて，次の問いについて考えること a．この経験で成功したことは何か？－教師の観点から／児童の観点から b．その成功を導いたのは何か？ c．どのようなジレンマに直面したか，そのようなジレンマにどのように対応したか？ d．次回はどのようなことを変えて行うか，その理由は？

5　信州大学教育学部における「学校教育臨床基礎」との比較－さらなる充実に向けて－

「臨床基礎」は，平成14年度に新設された臨床経験科目である。「臨床基礎」開設の経緯やねらい、その成果については別稿で報告されている（天岩ら，2002；天岩ら，2003)。本稿では，ED305と「臨床基礎」との比較から，「体験と研究の統合」を促進する「臨床基礎」の充実の方向性を検討する。

（1）リフレクションを促進する課題の設定

「臨床基礎」においては，「臨床基礎ポートフォリオ」を用いたり小論文課題を課したりすることによって，附属松本学校園における臨床経験を客観的にリフレクションする機会を設定してきている(谷塚，2003，谷塚・東原，2004)。しかしながら，ED305において設定されている課題，特に「教室マップ」や「児童研究」の手法は，「臨床基礎」にとっても有効であると考えられる。

「教室マップ」を作成することで，学生がどのような視点を持って臨床経験に臨んでいるのかを明らかにすることができるし，さらに学生自身も所属学級の児童・生徒の氏名や特徴を覚えることができる。「臨床基礎」の開始直後，後期開始直後，学年末に「教室マップ」を作成することで，学生は児童・生徒の成長を見とることができ，指導教官は学生の視点の変化や拡大を読み取ることができる。

また，「児童研究」は，一人の児童・生徒の学習や成長の過程を追いかけることによって，児童・生徒理解を促すことができることにとどまらず，どのような教授方略が適切であるのか，そして学習の成果を測定するためにはどのような評価法を用いればよいのかについても学ぶことができよう。

一方，「臨床基礎」は，「臨床演習」や「教育実習」とは異なり，指導案を作成したり実際の授業をしたりはしない。そのため，「探究プロジェクト」のような課題は，「臨床基礎」のねらいとは一致しないように思われるが，根拠に基づき実践をリフレクションする姿勢については学ぶところが多い。

（2）教科書の開発と使用

ED305では，3冊の教科書が指定されており，うち2冊を毎週のセミナーにおいて用いている。教科書とはいっても，その教科書の内容を解説するのではなく，読んできた章や事例を題材にして，自己の臨床経験と照らし合わせながらディスカッションするのである。

「臨床基礎」では教科書や参考文献は指定されていない。1年次生が履修する教職科目が「教職の意義等に関する科目」としての「教育参加」1科目であることを考慮すると，学習指導方略や評価法の理論を「臨床基礎」における実践と結びつける場の設定は1年次のうちは難しいかもしれない。

しかし，『教育実習生の声：学校現場からの事例集』のような事例集を用いることによって，「臨床基礎」を履修する教員養成初期段階の学生は，自分も直面することになるかもしれない（またはこれまでの臨床経験で遭遇した）ジレンマについて，オープンエンドなディスカッションを進めることができる。EBEの思想が導入されている米国ではこのような事例集を多く見つけることができる。日本においても，臨床経験や教育実習に臨んでいる学生によって執筆された「事例集」の開発が望まれる。

（3）指導体制の整備：Field Instructorとしての役割を果たす学部教員

ED305は，25～30人ずつにクラス分けがされており，そのcohortを担当するField Instructorが，毎週のセミナーのオーガナイズをはじめ，提出課題の評価やコメント記入，学校訪問しての授業参観や実習校指導教員を交えた個別指導などを行っている。「臨床基礎」においても，所属学校・学年ごとや専攻・分野ごとに小グループを編成し，学部教員がそのグループと年間を通して関わることによって，「臨床基礎ポートフォリオ」を用いたリフレクションシートの支援を行うことができよう。

6　おわりに

本稿では，信州大学教育学部における「学校教育臨床基礎」との比較をまじえながらUICにおける

ED305「Introductory Fieldwork」の特質を明らかにすることを通して，教員養成プログラム，特に教員養成初期段階の臨床経験科目を充実する方策を検討してきた。

そもそも教育制度も社会の状況も大きく異なる米国の教育界ではあるが，日本教育大学協会や国立大学教育実践研究関連センター協議会において検討が進んでいる「教員養成のモデル・コア・カリキュラム」や「教師の職能基準」をより充実させるための多くの示唆を得ることができよう。

今後は，教員養成後期段階における臨床経験や教育実習の特質を明らかにすることと合わせて，リフレクションを促進するためのティーチング・ポートフォリオの活用についても検討が必要であろう。

謝辞

在外研究にあたり，受入研究機関として在外研究の機会を提供して下さいましたイリノイ大学シカゴ校教育学部・Dr. Victoria Chou 学部長，受入研究者としてお世話になっている同教授・Dr. William H. Teale 先生，関連資料を提供して下さいました ED305 担当の Field Instructor・Daniel Miltner 先生，ならびに ED305 を履修している Junior のみなさんに厚く感謝申し上げます。

註

1) 本稿で用いている「臨床経験」という用語は，信州大学教育学部における「臨床経験科目」と同様，UIC における「Fieldwork」や「Student Teaching」など，教職を志望する学生が教育実習の前段階としてまたは教育実習として実際の学校現場に参加する実践的活動を意味している。
2) 以下，本稿で取り上げている ED305「Introductory Fieldwork」の目的や授業内容等は，この Miltner 氏のセミナーを通して配布されたシラバスや資料に基づいている。
3) 本稿では，UIC 教育学部の教員養成プログラムが初等教育段階に焦点を合わせているため、「child」「student」ともに「児童」と訳出している。「learner」も文脈により「児童」と訳出している場合もある。
4) 読む章や事例が毎回指定されている Cruickshank, Jenkins, Metcalf (2003) と Rand and Shelton-Colangelo (2003) ではあるが，セミナーの内容（ゲスト・スピーカーのスピーチ等）により，ディスカッションにとりあげられない回もあった。
5) URL（本稿執筆時）：http://www.ed.gov/admins/tchrqual/evidence/whitehurst.html

引用・参考文献

天岩静子・東原義訓・谷塚光典・溝口純永・平林伸一・赤羽高志・寺澤栄治 (2003)「『学校教育臨床基礎』」にみる教員養成初期段階の学生の成長」，『平成 14 年度信州大学教育学部・附属共同研究報告書』，pp.186-198.

天岩静子・佐藤明・溝口純永・他計 10 名 (2002)「学部と附属が連携した教員養成初期段階における臨床経験科目の開設ー信州大学教育学部附属松本学校園における『学校教育臨床基礎』の実践」，『平成 14 年度日本教育大学協会研究集会発表論文・全体討議要旨』，pp.171-174.

Cruickshank, Donald R., Jenkins, Deborah Bainer, and Metcalf, Kim K. (2003) *The Act of Teaching*, Third Edition. The McGraw-Hill Companies.

日本教育大学協会「モデル・コア・カリキュラム」研究プロジェクト編 (2003)「教員養成の『モデル・コア・カリキュラム』の検討ー『教員養成コア科目群』を基軸にしたカリキュラムづくりの提案ー」〔中間答申〕．URL（本稿執筆時）：http://www.u-gakugei.ac.jp/~jaue/saisin.htm

Paley, Vivian Gussin (1996) *Kwanzaa and Me*. Harvard University Press.

Posner, George J. (1999) *Field Experience: A Guide to Reflective Teaching*, Fifth Edition. Pearson Education.

Rand, Muriel K., and Shelton-Colangelo, Sharon (2003) *Voices of Student Teachers: Cases from the Field*, Second Edition. Pearson Education.

Schön, Donald A. (1983) *The Reflective Practitioner: How Professionals Think in Action*. Basic Books.（邦訳：ドナルド・ショーン，佐藤学・秋田喜代美訳 (2001)『専門家の知恵ー反省的実践家は行為しながら考える』，ゆみる出版）

谷塚光典 (2003)「全体会におけるポートフォリオを用いた授業内容」，「学校教育臨床基礎」連絡会編『信州大学教育学部「学校教育臨床基礎」の実践（平成 14 年度）』，信州大学教育学部，pp.12-25.

谷塚光典・東原義訓 (2004)「教員養成初期段階における臨床経験科目に関するリフレクションを促すティーチング・ポートフォリオの活用」，日本教育大学協会第二常置委員会編『教科教育学研究』，第 22 集，印刷中.

(2003年12月15日　受理)